

SimC News Letter

Sendai International Music Competition

2022年12月20日号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第8回仙台国際音楽コンクール優勝者公式ライブCD発売!

第8回仙台国際音楽コンクール優勝者ファイナル、入賞者記念ガラコンサートの演奏を収録した公式ライブCDが12月7日(水)に発売されました。
発売に合わせて、優勝者のお2人に、収録曲への思いをお聞きしました。
才能あふれる若き音楽家の全力の演奏を、もう一度お楽しみください。



FOCD9875

〔収録曲〕

モーツアルト:ヴァイオリン協奏曲 イ長調 K219
バルトーク:ヴァイオリン協奏曲 第2番 Sz112
〔指揮〕広上 淳一
〔管弦楽〕仙台フィルハーモニー管弦楽団

中野りな NAKANO Lina ヴァイオリン部門優勝

—CD収録曲について

モーツアルトのコンチェルト第5番は、小さい頃から勉強していくて、大好きな作品です。ただ、モーツアルトの曲全般に言えることですが勉強するたびに難しさを感じます。今回のコンクールに向けては、この曲にはいろいろな登場人物がいてそれぞれのキャラクターを表現したいと思い、それぞれのシーンの情景を具体的にイメージするようにしました。これからも勉強し続ける曲ですので、モーツアルトの溢れるような音楽をもっと自然に表現できるようになりたい、と思っています。

バルトークは、先生に薦めていただき勉強したとても思い入れのある作品です。オーケストラの編成が大きく、ソロとのコンビネーションも複雑なので、音楽的にも技術的にも非常に難しい作品ですが、コンクールでは、指揮の広上先生をはじめオーケストラの方々がサポートくださったおかげで、特に不安はありませんでした。それ以上に、全員で一つの音楽を作り上げていっているような強いエネルギーを感じ、気持ちがとても高まりました。

—ファンへのメッセージ

仙台での日々は一生忘れることがないと思います。共演してくださった方々、会場に聴きにいらしてくださった方々など多くの支えがあって、自分らしい演奏ができたのだと思います。初めてのCD、なかなか実感がわからず不思議な感覚でいますが、この特別なコンクールでの、その時の演奏を、皆さんに聴いていただけたらとても嬉しいです。

ルウオ・ジャチン LUO Jiaqing ピアノ部門優勝

—CDに収録曲について

このCDに収録されている2つの協奏曲は、どちらも私の大好きな曲です。

指揮者の高関健さん、仙台フィルハーモニー管弦楽団との2つの名曲で共演できることを光栄に思います。

コンクールでは、オーケストラと音楽でたくさんの"対話"を重ね、聴衆の皆さんにひとつの物語をお見せしたいと思い演奏しました。

K503はモーツアルトのピアノ協奏曲の中で私が最も好きな作品です。その美しさは繊細で、特に第1楽章では極めてシンプルな音を用いて非常に複雑で精巧な表現を示していると思います。

私にとってモーツアルトの協奏曲が"白"であるなら、プロコフィエフの協奏曲第2番op.16は"黒"です。このプロコフィエフの協奏曲は確かに"破滅的"な響きを持っており、演奏家や聴衆はその技巧的な複雑さに魅了されますが、このような悪魔的な技法は、実は当時の作曲家の内なる葛藤を表しているのです。この協奏曲を指揮者、オーケストラと一緒に演奏するとき、ピアノとオーケストラが完全に"支えあう"のではなく、時には"向かい合う"ものにならなければならないのです。

—ファンへのメッセージ

私の演奏を聴いてくださりありがとうございます。私の音楽が皆さんの心に響くことを願っています。今年6月の仙台国際音楽コンクール出場のための来日は、私をとても幸せな気持ちにさせてくれましたし、日本の文化や環境にとても感銘を受けました。

2023年6月に皆さんの前で演奏できることを心から楽しみにしています。

定価:2,640円(税込) (2022年12月7日発売)

販売元:株式会社ファンテック

取り扱い:全国のCDショップほか

制作:公益財団法人仙台市市民文化事業団



■お問い合わせ/公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel:022-727-1872 Fax:022-727-1873 Email:info@simc.jp URL:https://simc.jp

エマイユ・フィルハーモニック第15回定期演奏会出演 エリias・ダビッド・モンカド(第7回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門第5位)演奏評 須永 誠(フリーライター)

第7回仙台国際音楽コンクールのヴァイオリン部門で第5位に入賞したエリias・ダビッド・モンカドの仙台での公演が、ようやく実現した。仙台市のアマチュアオーケストラ、エマイユ・フィルハーモニックの第15回定期演奏会にソリストとして出演、ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲を披露した(2022年11月27日、日立システムズホール仙台)。

モンカドとエマイユ・フィルとの共演は当初、2019年のコンクール後初の来日公演として2020年6月に予定されていた。しかしコロナ禍で2度にわたって延期を余儀なくされ、仙台の聴衆の前に立つのはコンクール以来3年半ぶり。満を持しての登場で確信に満ちた解釈を示し、この間の成長ぶりを強く印象づけた。

22歳になったばかりの若者とは思えない落ち着き、気品を感じさせるベートーヴェンだった。この曲の持つ独特の明るさや穏やかさ、根底にある情熱を気負うことなく表現する。作品全体への深い理解、オーケストラへの気配りが感じられ頼もしい。ベートーヴェンの協奏曲はこれまでヨーロッパで2回、マレーシアで1回演奏してきたとか。さまざまな経験を積み重ねたことで、ドイツの伝統の中で育まれた音楽性に磨きがかかると言えるだろう。

久しぶりに演奏に触れ、多くの発見があったが、第一に評価したいのは音楽と誠実に向き合う姿勢だ。第1楽章はゆったりしたテンポで一音一音かみしめるように丁寧に進み、繊細さも際立つ。技巧をひけらかしたり奇をてらったりすることとは無縁。正攻法で自然な流れを生み出していく。優美で歌心に満ちた第2楽章。全曲で唯一「カンタービレ」と記された中間部は非常に丁寧に、慈しむように奏でた。第3楽章のロンド主題は躍動感にあふれ、最後は圧倒的なエネルギーを解放させる。

カデンツアはクライスターのものを演奏した。全曲を通してオーソドックスな音楽を構築する中、カデンツアでは自在に思いのたけをぶつけ、強いインパクトを与えた。終演後になぜクライスターなのか聞いたところ、「技巧的にも音楽的アイデアもエキサイティングだから(このカデンツアを)弾きたかった」と、迷いなく選んだことを強調していた。この選択も奏功し、結果的に「知」と「情」のバランスがとれた好演につながったと思う。さらに経験を重ね、オーケストラの微妙な息遣いの変化に臨機応変に対応できる柔軟性を身に付ければ、一層の飛躍が期待できるだろう。

モンカドがコンクール本選で演奏した瑞々しいチャイコフスキーの協奏曲は、今も印象に残っている。その後ロシアのウラジーミル・スピヴァコフ国際コンクールやイタリアのヴァルセージア国際コンクールのヴァイオリン協奏曲部門で優勝。オーケストラとの共演を重ねるなど実績を積んできた。2022年4月にはヒンデミットやバルトークのソナタなどを収めたCDをリリースしている(CAvi Music=輸入盤)。第7回コンクールの入賞者の中でも最も伸び盛りの一人に違いない。

エマイユ・フィルは2004年、宮城教育大学管弦楽団(現在活動中の宮城教育大学交響楽団とは異なる)の卒団者を中心には結成された。指揮は音楽総監督兼常任指揮者の渡部勝彦(山形交響楽団首席指揮者などを歴任、宮城教育大学名誉教授)。オーケストラの潜在能力を存分に引き出し、造形的に整った演奏でモンカドを支えた。

仙台国際音楽コンクール入賞者と仙台市内のアマチュアオーケストラの共演は第2回コンクール翌年の2005年から続いている。今回が19回目。入賞者と仙台市民との交流促進に大きな役割を果たし、市民オーケストラ、学生オーケストラに刺激を与えてきた。アマチュアオーケストラの演奏会は、プロとは一味違う熱気に満ちている。モンカドにとっても、エマイユ・フィルの音楽への情熱に触れたことは、今後の活動の糧になるのではないか。

第8回仙台国際音楽コンクール優勝記念リサイタル 開催決定!

第8回仙台国際音楽コンクール優勝記念リサイタルを仙台・東京で開催いたします。
チケットは2023年2月8日(水)一般発売予定です。詳細は公式サイトをご確認ください。

ヴァイオリン部門優勝 中野りな
【東京】2023年6月15日(木)
【仙台】2023年6月18日(日)

ピアノ部門優勝 ルウォ・ジャチン
【東京】2023年5月24日(水)
【仙台】2023年5月28日(日)



公式サイトQRコード